

平成 30 年度

事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 えのき会

京都市伏見区桃山町山ノ下 4 4 番地 8

社会福祉法人えのき会 2018 年度事業報告

1. 役員の状況

【理 事】 理事 6 名 監事 2 名

役職名	氏 名	任 期
理 事 長	古 川 末 子	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで
常 務 理 事	村 上 高 久	〃
理 事	渡 辺 登 志 子	〃
理 事	高 橋 陽 子	〃
理 事	西 村 清 忠	〃
理 事	橋 本 加 津 代	〃
監 事	磯 貝 英 雄	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで
監 事	荻 原 卓 司	〃

【評 議 員】 評議員 7 名

評 議 員	小 林 幸 次 郎	平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年度会計定時評議員会終結時まで
評 議 員	小 山 敏 枝	〃
評 議 員	清 水 千 賀 子	〃
評 議 員	岸 本 栄 嗣	〃
評 議 員	田 中 聖	〃
評 議 員	山 田 章 代	〃
評 議 員	下 山 さ え 子	〃

【評議員選任・解任委員】

選 解 委 員	早 川 京 子	平成 29 年 3 月 1 日～平成 31 年度会計に関する定時評議員会終結時まで
選 解 委 員	磯 貝 英 雄	〃
選 解 委 員	西 山 竜	〃

【第三者苦情解決委員】

苦 情 解 決	立 岩 真 也	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで
苦 情 解 決	土 田 文 子	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで

2. 理事会の開催状況

第 1 回理事会

開催年月日：平成 30 年 5 月 25 日（金曜日） 15 時 00～15 時 45 分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名

- （1）理 事： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠 （全員出席）
- （2）監 事： 礒貝英雄、荻原卓司
- （3）事務局： 西山竜
- （4）議案及び議決事項
 - 第 1 号議案 2017 年度 事業報告について
 - 第 2 号議案 2017 年度 収支決算報告（案）について
監事監査報告
- （5）その他
 - 報告事項 ハックベリー第三者評価結果の報告

第 2 回理事会

開催年月日：平成 30 年 10 月 12 日（金曜日） 14 時 30 分～15 時 55 分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名

- （1）理 事： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠
欠席者：渡辺登志子
（理事 6 名中、5 名の出席）
- （2）監 事： 礒貝英雄
荻原卓司
- （3）事務局： 西山竜
- （4）報告事項
 - ・執行役員からの職務執行状況の報告について
 - ・職員アンケート結果の報告について
 - ・統括部長退職（嘱託職員として継続雇用）について

- ・事業所建設用地の取得に向けて

第3回理事会

開催年月日：平成31年1月10日（木曜日） 13時35分～14時30分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

（1）理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠 （全員出席）

（2）監 事： 礒貝英雄
荻原卓司

（3）事務局：西山 竜

（4）議案及び議決事項

第1号議案 事業所建設用地の取得に向けて

（5）報告事項

京都市社会福祉法人等指導監査の報告（講評）

第4回理事会

開催年月日：平成31年3月27日（水曜日） 14時30分～15時10分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

（1）理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠、（全員出席）

（2）監 事： 礒貝英雄
荻原卓司

（3）事務局：西山 竜

（4）議案及び議決事項

第1号議案 2018年度補正予算（案）について

第2号議案 2019年度事業計画（案）について

第3号議案 2019年度予算（案）について

第4号議案 経理規程の変更について

第5号議案 報酬規程の変更（案）について

第6号議案 次回評議員会の招集事項について

その他

報告事項

- ・京都市社会福祉法人等指導監査等の実施結果の報告／文書指摘

3. 評議員会の開催状況

定時評議員会

開催年月日：平成30年6月15日（金曜日） 15時00分～15時50分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

(1) 評議員：小林幸次郎、清水千賀子、下山さえ子、小山敏枝、
山田章代、岸本栄嗣

欠席者：田中聖

(評議員 7 名中、6 名の出席)

(3) 質疑応答者：古川理事長
村上統括部長

(4) 事務局： 西山竜

(5) 議案審議

第 1 号議案 2017 年度収支決算報告について
監事監査報告

(6) その他

報告事項 ・ 2017 年度事業報告について
・ ハックベリー第三者評価結果の報告

第 2 回評議員会

開催年月日：平成 31 年 3 月 28 日（木曜日） 15 時 00 分～15 時 50 分

場 所：グループホーム「ベル」

出席者氏名：

(1) 評議員：小林幸次郎、下山さえ子、小山敏枝、田中聖
山田章代、岸本栄嗣

欠席者：清水千賀子

(7 名中 6 名出席)

(2) 質疑応答者：古川理事長
村上統括部長

(3) 事務局： 西山竜

(4) 議案審議

第 1 号議案 2018 年度補正予算について

第 2 号議案 2019 年度事業計画について

第 3 号議案 2019 年度予算について

第 4 号議案 報酬規程の変更について

その他

報告事項

・ 京都市社会福祉法人等指導監査の報告
経理規程の変更

4. 法人会議・職員研修報告

◇法人会議

- ・執行役員会（水曜会）全9回開催
理事長・執行役員理事・統括部長・所長
(2018年5/16、6/27、7/18、9/5、10/4、11/7、12/19、2/1、3/13)
- ・執行役員と職員との懇談
- ・事業運営会議（毎月） 統括部長・所長・主任等の事業管理者会議
- ・法人合同職員会議（6月、11月、3月、）

◇職員研修会

第一回 ケースカンファレンス研修会

～田中唯斗さんの食事についての事例検討～

日 時：平成30年5月13日 午前

場 所：さくらの家 1階

参加者：34名

進 行：森下所長

第二回 法人職員階層別研修

日 時：平成30年10月14日

① 内 容 「摂食研修会」10:00～12:00

場 所：さくらの家 2階

参加者：12名（1～3年目の職員）

講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 中谷 芽氏 言語聴覚士

② 内 容 「事例検討 3 ケース」～人材育成をめぐって～ 10:00～12:00

場 所：さくらの家 1階

参加者：20名（4年目以降の職員）

進 行：森下 助言者：村上統括部長

③ 内 容 「健康管理」～バイタルサインを中心に～ 午後

参加者：31名

講 師：谷村看護師

第三回 「ハラスメント研修会」

日 時：平成30年11月11日 午前

場 所：さくらの家 2階

参加者：46名

講 師：社会保険労務士 勝見九重氏

第四回 「人権研修」支援者としての主観の役割を「人間性の尊重と権利擁護の ために

日 時：平成31年3月11日 午前

場 所：さくらの家 2階

参加者：33名

講 師：京都造形芸術大学准教授 岸本栄嗣氏

◇安全運転講座

「交通事故の発生状況と危険予測」

日 時：平成31年3月14日

場 所：さくらの家 2階 午前

参加者：15名（公用車運転業務従事者）

講 師：三井住友海上火災保険リスク管理担当

◇普通救命救急講習会 午後（場所：さくらの家2階）

日 時：平成30年8月23日 参加者：9名

日 時：平成30年10月25日 参加者：7名

日 時：平成31年3月13日 参加者：10名

講 師：京都市消防局伏見消防署醍醐分署

◇生活介護部門研修「リハビリ研修会」

① リハビリテーションの基礎

日 時：平成30年9月8日 午後

場 所：さくらの家 1階

参加者：7名

講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士 泉 圭輔氏

② リハビリテーション研修 演習

日 時：平成31年3月2日 午後

場 所：さくらの家 1階

参加者：8名

講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士 泉 圭輔氏

◇法人管理職研修

①内 容：主任の役割について

日 時：平成30年5月13日 16:30～17:30

場 所：さくらの家2階

参加者：主任4名

②内 容：労務管理の基本と職員の健康管理～労働基本法の基礎～

日 時：平成30年9月12日 13:30～15:00

場 所：さくらの家2階

参加者：主任5名

講 師：社会保険労務士 勝見九重氏

③内 容：変形労働時間制について

日 時：平成31年1月23日 13:30～15:00

場 所：さくらの家2階

参加者：管理職等7名

講 師：社会保険労務士 勝見九重氏

◇2019 年採用新任職員研修

日 時：平成 31 年 3 月 11、12、13、22、25 日、4 月 6 日の合計 6 日間

参加者：5 名

内 容：介護基礎研修、人事制度（キャリアパス）、職員マナー、総合防災訓練、利用者の健康管理、法人の沿革と基本理念、摂食嚥下の基礎知識、事業方針、行動規範・就業規則、車いす介助方法等

講 師：古川理事長、村上部長、田中課長、森下所長、村井所長、高尾所長他

5. 法人本部報告

◇法人として

社会福祉法の改正から 2 年が経過する中で、理事、監事、評議員の皆様には、これまで以上の重い責任と役割が追加された。それぞれのお立場から、社会福祉法人として更にブラッシュアップするための提言を頂き進めているところである。

執行理事の役割として、各事業の執行状況の管理監督という立場から、今年度は、中堅職員（入職 5 年以上）や中間管理職から、普段、伝えられない意見や現場の声を直接聴く機会を設けた。個人的な事として埋没してしまいがちな小さな問題も、それぞれの事業所を通して見えてくる共通の課題であることに気づくことができ、改善に向けて一歩ずつ進めているところである。

法人の事業として、これまで利用者人数や職員の採用人数を順調に増やしてきてことができ、それと共に事業収入も伸びてきたが、2018 年度は、利用者が体調を崩して欠席する人や、長期入院する人が多かったため、障害福祉サービス等事業収入が、当初予算より 1,400 万の減収となった。

この事業を運営する上では、体調不良による欠席や入院は、避けて通ることができない。それに一喜一憂することより、他の事業（支援）をもって代えることが可能かどうか、法人の事業を今後も持続可能としていくために、素早い判断と知恵を絞っていくことが求められる。

えのき会の新規事業用と、社会福祉法人として地域で公益的な取組を展開するために、1 月末、土地（約 99 坪：伏見区桃山町西町）を購入。今後の計画について職員からも意見を求めているところである。（6,700 万円）

◇組織づくり

昨年、コンサルティングのアドバイスを受けて、課題であった組織の再構築、管理職の役割再編、各事業の役割分担などを進めている。課長、所長という管理職を新たに設け組織として進んでいるところもある。しかしながら、これまでの経緯から各事業の采配と権限が一極に集中していた統括部長の職務と権限を、計画的に委譲していくことが一番大きな課題であるが進んでいない状況である。一定の失敗も見込んだ上で、次世代職員にその権限も併せて職務を委譲することが、組織と意識の変革に繋がっていくことから、積極的に進めていく必要がある。

◇採用について
職員の採用と退職

2018.4.1～2019.3.31

職種	応募者数	採用者数
生活支援員	12	12
看護師	2	2
事務職員（育児休業者のための期間雇用）	1	1

雇用形態	2018/4/1 現在	採用	退職	2019/4/1 現在
常勤職員	63	8	2	63
非常勤職員	19	7	3	29
合計	82	15	5	92

注）期間中、雇用形態の変更あり。

今期採用は順調に進み、看護師 2 名もあらたに採用できた。一方で男性職員の確保に苦戦している。退職理由については、契約期間満了に伴う退職が 2 名、療養のための退職が 1 名、介護に伴う退職が 1 名、試用期間中の退職が 1 名。直近 3 年間の離職者数は継続して減少していることから、職場環境の改善に関して一定の成果がでていていると考える。

◇これから

世界の動きを見ても先の見えない混迷が予測されるなか、今後、弱者と言われる人たち、障害のある人、子ども、女性等は、さらに、社会の片隅に追いやられる心配も否定できない。えのき会が、追い求めてきた「重い障害のある人たちが、地域の中で排除されることなく当たり前生きていく」ということを基本の理解としてあるなら、理解の枠を社会的弱者まで押し広げていく必要がある。昨年度の事業報告にも掲載したが、法人として、《声のあげることができない人や、より小さな声》に寄り添い手を差し伸べていくことが、えのき会の大切な役割であることから、具体的に検討していきたい。

【総括】

今期においては、産休などに伴う人事異動もあり、職員間の連携、チームとしての力を再びつけていくこと、医療的ケアが必要になる等、利用者の状態変化に如何に対応するか、という2本の柱を中心にした運営となった。

今年の特徴としては、体調を崩され入院された利用者が5名あった。結果、身体機能に変化があり、気管切開での喀痰吸引、経管栄養での栄養補給など医療的ケアのニーズが高まった。以前とは違う状況に対応すべく入院中のご様子の聞き取り、状態把握、再度受け入れるための準備を生活支援員、看護師が連携し取り組んだ一年であった。

生活支援員に向けては、気管切開とはなにかといった概要的な学習を行い、受け入れに必要な知識を得ること、看護師とは、実際に受け入れるにあたって具体的な課題を洗い出し、行動レベルにおいて必要な物、事などを整理できた。

今期中に気管切開となった利用者一名の再受入れを行えた。通院同行など積極的に行い、主治医との連携、情報共有に努め、本人、ご家族が安心して通所できるよう取り組んだ。一方、職員の知識不足などの課題も浮き彫りになった。今後とも医療的ケアが必要な利用者にも、安心して過ごしていただくための知識、技術の習得に向けた計画的な取り組みが必須であると感じた。

チームの再編に際しては、職員同士の連携力の強化、職員育成を中心に取り組んだ。新任職員の週1回のヒアリングは継続して実施できたものの、3年目4年目の職員との定期ヒアリングが実施できず、なにか問題があった場合に適宜、話し合いを行うにとどまった。今後においては、定期的に懇談の場をもち、なにか起こってからでなく、起こる前に問題点を洗い出し、対応、改善が図れるよう取り組む。

連携力の強化に関しては、毎日のミーティングにて活動の段取りを職員全員で確認するなど、事前準備を中心に力を入れ取り組んだ。日中の活動のみならず、その他業務においてもある程度の無駄が省かれ、効果があったように思われる。

日中活動においては、クッキング、アルミ缶リサイクル、室内ゲーム、園芸活動、ストレッチ、スヌーズレンなどを軸に昨年度からの活動を引継いで実施した。スヌーズレンにおいては、充実を目指すため職員間で話し合いの場を持ち、改善点や今後の展望をもって活動展開が行える下地ができあがってきている。その他、活動に関しては現状維持にとどまっているが、順次、利用者にとってよりよいものとするべく取り組んでいくことを目標とする。

一方、屋外での活動に関しては職員体制などの理由から、事業所周辺の散歩にとどまり、半日、一日の外出などは行えなかった。今期を通し、職員の力量アップも見込めたことから、来期においては半日外出から取り組みを再開したいと考えている。

1. 職員体制

所長 1名 サービス管理責任者 1名 看護師常勤1名・非常勤5名

生活支援員一日平均10.6名以上（正規35名、非常勤3名）（看護師含むと12.7人）
（基準上の必要職員数8.7名）

事務員1名(兼務) 運転手1名(兼務) 栄養士2名

2. 利用状況

登録名 38名（3月末） 男性16名 女性22名

年度途中退所者 2 名 新規利用登録 2 名
年間開所日数 290 日 年間延べ利用者数 4,093 名（昨年 4,301 一昨年 4,231）
一日平均利用者数 14.1 名（昨年 14.7 名 一昨年 14.8 名）

3. 主な活動

1) 外出先

・京親協コンサート 12 月（半日） ・事業所周辺散歩 適宜

2) 主なレクリエーション活動

・染物・園芸・紙すき・音楽療法・室内ゲーム・誕生会・アルミ缶リサイクル・クッキング等

3) 避難訓練 10 月参加者 28 名（内、職員 14 名）

3 月参加者 35 名（内、職員 21 名）

4. アクシデント

・与薬関連 3 件（与薬時間遅れ 2 件 服薬間違い 1 件）

・怪我 5 件（他傷 1 件）

・紛失・物品破損・私物取扱・物品管理件 12 件

（私物忘れ 1 件 管理 3 件 私物破損 6 件 事業所備品破損 4 件）

・介護 10 件

・送迎 3 件（時間伝達間違い 1 件 必要物品忘れ 1 件 利用者宅物品破損 1 件）

・給食 3 件（異物混入 1 件 提供間違い 2 件） 以上 36 件

＊お預かりしていた他事業所でのショートステイの記録がほかの利用者の荷物に混入してしまうことがあった。個人情報の取り扱いの杜撰さが露呈した一件であった。ケースファイル等個人情報の取り扱い方法の見直しを行い、改善に努めた。

生活介護事業 さくらの家 事業報告

【総括】

職員体制が変更になり、新たに職員が活動を引き継ぐことになったが、紙漉きやアルミ缶リサイクル、ビーズ制作等、最低限継続させながら利用者の能力を引き出すことに重点をおいて実施した。

そうした中、図書館へ外出し借りてきた本を朗読する活動が定着し、季節に応じたイベント、月に 1 度は老人ホームで開催されている藤城カフェへ訪問する等の取り組みをおこなう。一方、ボランティアの方の協力を得てさくらの家で朗読会やギターライブをおこなうといった利用者にとっての楽しみも増えている。全体でのプログラムが多く、来年度に向け活性化を図れるよう、個々のニーズに沿った活動、できれば小グループ活動を取り入れていける体制を整えていく。

また、即売会の実施はおこなっていないが、地域交流の機会を増やすことを目標とし、アルミ缶回収やイエローキャンペーンご協力等のチラシを作成し、地域の方に向けてのポスティングを継続した。また、アルミ缶リサイクルの回収を継続し、ご協力いただいた方に自主作品の提供を継続することで、「さくらの家」を知ってもらう機会を作っていく。

健康管理面においては、看護師が常勤する中でバイタルの数値や、発作の様子、普段と違う状態など報告し、迅速な対応ができるように職員と看護師の連携を図っている。また、看護師の指導のもと、医療的ケアに従事できる職員を増やし、安全に業務遂行ができるように心がけている。また、入浴のニーズが年々増え、安全に入浴がおこなえる環境、入浴の業務を担える職員を増やし、チーム体制を整えてきた。入浴時には全身の皮膚の状態の把握に努め、状態の悪化を防げるように情報を共有している。今後も、ご家族のニーズに対応できるように職員とご家族との信頼関係を築いていきたい。

職員育成に関しては、個々の能力に応じた研修に派遣し、スキルアップを目指した。その結果、利用者に関するミニカンファレンスの時間を意識して開催するようになった。今後も継続して利用者の意向、適性、障害の特性を理解し、その人に応じた関わりができる職員を育成していく。

今後は、日勤職員が中心となり、利用者が楽しく安全に過ごせる生活介護事業所を目指し、日々のミーティングでは職員同士が意見を交換し、改善案を出し合うことで利用者にとってより、生活の質が向上できるように努めていく。

1. 職員体制

所長 1名 サービス管理責任者 1名 看護師非常勤 4名
生活支援員一日 6.5名以上（正規 27名 非常勤 3名）（看護師含むと 7.6人）
（基準上の必要職員数 7.1名；看護師含む）
事務員 1名（兼務） 運転手 1名（兼務） 栄養士 1名

2. 利用状況 登録 31名（3月末） 男性 10名 女性 21名

新規利用登録 3名
年間開所日数 240日 年間延べ利用者数 2,778名（昨年 2,944 一昨年 2,990名）
一日平均利用者数 11.6名（昨年 12.1名、一昨年 12.3名）

3. 主な活動

1) 外出先

- ・洛南イオン（4、5、6、7、9、12月の11日イエローキャンペーン活動参加）
- ・醍醐図書館（毎月2回） ・藤城カフェ（毎月1回、木曜日）
- ・4月 地域サロン訪問（二胡演奏）
- ・5月、6月 琵琶湖博物館
- ・10月、11月 京都市水族館
- ・11月 紅葉ドライブ・芸術祭（みやこめっせ）
- ・12月 京親協コンサート

2) 主なレクリエーション活動

- ・紙すき・音楽療法・アルミ缶リサイクル・クッキング・創作活動・戸外活動・季節に応じたイベントレクリエーション・ハンモック

3) 避難訓練 3月参加者 30名（内、職員 18名） 10月参加者 24名（内、職員 14名）

4. アクシデント

- ・怪我 9 件（転倒 2 件・他傷 3 件・怪我 4 件）
- ・送迎関係 1 件（送迎忘れ 1 件）
- ・私物取扱い関連 3 件（私物荷物忘れ 1 件・私物の取り扱い 3 件など）
- ・紛失、物品取扱い 2 件（破損 2 件）
- ・その他 4 件（誤食の可能性・主菜を提供し忘れる・飲み物を温めすぎてしまう

発作誘発の可能性）

以上 19 件

*アクシデントの件数は、2017 年度に比べてやや増加している。その中でも、活動時や送迎の乗り込み時の怪我があり、繰り返さないためにも周囲の安全確認や環境整備を十分におこなうことを職員間で周知している。また、誤食の可能性や発作誘発の可能性があったアクシデントに関しては、利用者の方の特性の理解に努め、常に危険予測をおこないながら、職員間で声を掛け合い、未然に防げるようにしていきたい。

共通事項

1. 主な派遣研修・会議等

- ・キャリアパス対応初任者コース（3 名）
- ・社会福祉援助入門講座（1 名）
- ・ケースカンファレンス研修（1 名）
- ・リスクマネジメント（一般職員）（1 名）
- ・たん吸引等研修（第 3 号研修）（1 名）
- ・ファシリテーション（1 名）
- ・対人援助のためにコーチング活用講座（1 名）
- ・職員会議（1 回／月）

2. 利用時間

◇榎の家 月曜日～土曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

◇さくらの家 月曜日～金曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

3. 一日の予定

送迎→到着(9:40)→朝の会→午前の活動→昼食・休憩→午後の活動→送迎(15:40)→各家庭

4. 福祉体験実習・施設見学等の受入

呉竹総合支援学校（高等部 2 年生）施設見学会	6 月 9 日 4 名
呉竹総合支援学校施設見学会	7 月 31 日 10 名
滋賀県栗東民生委員施設見学会	9 月 25 日 19 名
呉竹総合支援学校福祉体験実習	9 月 25～27 日 1 名
呉竹総合支援学校施設見学会（高等部 2 年）	11 月 17 日 2 名
中学生（宇治市）職場・福祉体験学習受入	11 月 9～10 日 3 名
池坊短期大学幼児保育学科保育実習	3 月 5～16 日 11 日間 2 名

5. その他

アルミ缶リサイクル活動の売上金については、利用者全員に 12 月フリース、ひざ掛けを配布した。

共同生活介護事業 ハックベリー 事業報告

【総 括】

利用者それぞれが年を重ね、身体状況に変化が顕著にみられた1年であった。2名が誤嚥性肺炎で入院。そのうち1名は喉頭気管分離術の手術を受けることとなった。食べることは口からの刺激が一番ダイレクトに感じられる刺激であるが、その楽しみが徐々に困難になること。刻み食から徐々にペースト食へ。ペースト食でも形状の固さの調整が少しでもできていないと食べ辛い状況に陥る。利用者個々の状況の変化を見極め対応しているが、難しく感じる現状がある。そのような中、嚥下外来を受診することができ、食事に不安を抱えている利用者が専門医にアドバイスをもらえたことは有効であった。

また、喉頭気管分離術の利用者を受け入れるにあたり、職員間で医療的ケア(気管切開)についての学習をする機会を設けた。

摂食の部分だけでなく、様々な部分で加齢による体調変化がみられている。医療機関等との連携、情報共有を実施。変化にどのように寄り添い対応していくべきかを考えていく。

余暇支援に関しては、6名全員での参加はできなかったが、2泊3日「ハウステンボス」への旅行を実施。過去に3回行ったディズニーランドとは違い、パーク内がゆったりとしており落ち着いて過ごすことができた。それぞれ利用した施設は好意的であり、レストランでのペースト食の提供や移動手段の一つである貸し切りリフト付きバス。様々なバリアフリーを感じることができた。旅行初日に転倒にて骨折というアクシデントもあったが、応急処置をしてもらい旅行を楽しむことはできていた。利用者自身の体力的な問題を考えると、これが遠方へ行く最後の旅行になると感じている。

月1回のホーム利用者6名揃っての外出は困難になりつつある。余暇=外出という概念を取り除き、室内でも楽しめる企画を実施する。

職員支援体制にて、夜勤に入る職員の体調不良がみられるようになったこと、朝方に利用者同士がトラブルになり他傷するアクシデントが発生したことより、ホーム業務の流れと夜勤職員業務の見直しをはかった。しかしすべての問題点が解消しているわけではない。今後も継続して働きやすい職場環境を目指し、業務改善をおこなう。

2019年に10年目を迎える「ハックベリー」。日々潤いある生活が送れるよう、利用者の心身状況の変化を敏感に感じ取り、個別性を大切する支援を心がけていきたい。

1. 職員体制

管理者・サービス管理責任者 1名(生活支援員兼務)

生活支援員 9名(常勤9名)

世話人 6名(常勤3名、非常勤3名)

ヘルパー派遣 27名 監査資料参照

2. 利用状況 入居定員6名 入居者6名

延べ利用人数 1,847人(稼働率84.3%) 営業日 365日

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整、専門医の通院調整

2) 余暇支援 毎月1回全員での外出

(須磨海浜水族園・大阪城・和菓子作り体験・エキスポシティ等)

3) 避難訓練(短期入所事業との合同訓練)

10月参加者12名(内、職員7名)(夜間想定訓練)

3月参加者13名(内、職員8名)(朝想定訓練)

4. 主な派遣研修・会議等

・派遣研修

7月～8月 ケースカンファレンス(1名)

7月～9月 OJT リーダー育成研修(1名)

8月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(管理職コース)(1名)

9月 福祉職員人権研修～新任・中堅編～(1名)

9月～10月 問題解決のための思考法(1名)

10月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(中堅コース)(2名)

2月 福祉サービス苦情解決事業相談研修会(1名)

・ハックベリー職員会議(年12回)

5. アクシデント

・与薬関連 3件(処方ミス1件、落下薬1件、飲み忘れ1件)

・怪我 4件(自傷1件、他傷1件 転倒1件、介助時1件)

・転倒 1件(怪我なし)

・他傷 1件(怪我なし)

・見守り不備 3件

・管理関係 7件(スタッフルーム管理不備1件、金銭関係1件、

個人所有物管理3件、配膳ミス1件、個人スケジュール管理1件)

合計19件

※昨年よりアクシデント件数は減少しているが、一つ一つのアクシデント内容が重大であった。特に転倒にて骨折につながってしまったケース、利用者同士のトラブルで怪我につながってしまったケース等は、治療に時間がかかってしまい、当事者に非常に辛い思いをさせてしまった。心因的な要因、身体的な要因はあるが、利用者個々の置かれている状況を把握し、それぞれのホームでの過ごし方に見直しをかけ、トラブルが繰り返されないように対応した。

共同生活介護事業 ベル 事業報告

【総 括】

今年度は9月に実施した職員アンケートを通じて職員の声を受けて、職員1人1人が働きやすい環境、長く働き続ける事が出来る職場環境の構築へと検討を重ね、体制面の改善に向けての歩みを進めた。今後の法人全体の運営面や人材の育成状況などを鑑みながら、然るべき時期に施行出来る段階に至っている。

健康管理面として、入居者様それぞれに年齢を重ねている中、誤嚥性の肺炎の発症、これまで見られなかった喘息発作の発症、発作が重度化しており日常的に通院対応を迫られるなど、年々状態としては変化してきている。そういった状況の中、これまでの経験を活かし、迅速かつ的確な対応に努めるとともに、関係各所への情報の提供・共有については意識的に取り組み、その点については一定の評価をしたい。

加齢に伴う身体状況の変化というものが、年々シビアになってきている印象があり、これまで以上の意識を常に持ち、入居者様お一人お一人の日々の健康管理に努めていかなければならない。

アクシデントの件数としては減少傾向ではあるが、インシデントの報告件数としては上昇傾向にあり、アクシデント発生リスクは常態的に潜在していると推察できる。

とりわけ誤薬及び落下薬、転倒のアクシデント件数が多く、薬の取り扱いや入居者様の見守りという点において、職員の意識が鈍感になってしまっているのではないかという危惧があり、その点については改めての注意喚起・指導を行っている。

余暇支援としては、入居者全体での合同外出を継続、琵琶湖クルーズや吉本新喜劇鑑賞など、非日常的な経験が出来る外出が多く企画された印象である。今年度より外出時の入居者様の満足度を知るための外出評価表を施行しており、その内容からも、入居者様も楽しんで外出に参加できている事が窺い知れる。

職員体制としては、入居者様と職員との間で、関係性に課題が生じるケースが生じた。未だ関係の改善には至っておらず継続しての取組み課題となっている。利用者様からの声をどう受け止め、どのように行動に移していくのか、当事者のみならず事業所の課題として受け止め、チームとして考え、行動として体現する事が求められている。

次年度に向けての取組みとしては、まずは5月に予定されている事業所として2回目となる1泊旅行を、安全に入居者様も参加してともに楽しめる旅行として実現する事、そして事業所としても職員個々としても、今一度初心に立ち返り、日々の支援、日々の関わりにおいて丁寧さを心がけたい。その模範を示すべく中心を担ってくる中堅職員の底上げを目指し、チーム力の強化へと人材の育成を進めて行く。

1. 職員体制

管理者 1名	サービス管理責任者 1名	生活支援員 10名(常勤 10名)
世話人 8名(常勤 5名、非常勤 3名)		ヘルパー派遣 28名

2. 利用状況 入居定員 6 名 入居者 6 名
延べ利用人数 2,063 人 (稼働率 94.7%) 営業日 363 日

3. 主な活動

- 1) 日中支援
 - ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
 - ・往診医との連絡調整
- 2) 余暇支援 吉本新喜劇鑑賞・おたべ工場見学・太秦映画村・琵琶湖クルージング
ナイトイルミネーション等
- 3) 避難訓練 10 月参加者 11 名 (内、職員 5 名)
3 月参加者 11 名 (内、職員 5 名) (夕方想定訓練)

4. 主な派遣研修・会議等

- ・7 月 利用者の声を聴く (2 名)
強度行動障害支援者養成研修 (2 名)
- ・9 月 福祉職員人権研修 (中堅職員編) (1 名)
- ・10 月 社会福祉援助入門講座 (1 名)
- ・1 月 福祉職員のためのアンガーマネジメント講座 (1 名)
- ・避難訓練 (10 月参加者 11 名、3 月参加者 11 名)
- ・ベル職員会議 (年 12 回)

5. アクシデント

- ・与薬関連 7 件 (落下薬 4 件)
- ・転倒、怪我 8 件 (傷 4 件、転倒 4 件)
- ・物品破損、紛失 6 件 (備品、私物の破損 5 件、紛失 (後、発見) 1 件)

計 21 件

※誤薬及び落下薬のアクシデント件数が多く、薬の取り扱いについて、改めて職員に再周知を行っている。1 件に関しては、重大なアクシデントに繋がり得るケースであり、個別での薬事情報の把握についての指導を行っている。

※上記アクシデントを受け、与薬前の呼称確認、複数確認の徹底を周知・施行している。

短期入所事業 サポートセンターえのき 事業報告

【総括】

利用登録者は25名で、昨年度より2名減少している。利用総数553人のうち、区分6が約半数をしめ、区分5が32%、区分4と3が約10%前後となっている。

今期も支援施設への入居が決まり、夏以降利用されなくなった方がおられる一方、新たに利用をはじめた方もおられた。総数としては、今後とも支援体制の関係上、現状維持することになる。なお、利用総数は減少傾向にあるが、ご家族の年齢等を考慮し、関連する短期入所事業所が利用できるように連携・サポートを心がけた。

1. 職員体制

管理者 1名 生活支援員 15名(常勤兼務)

2. 利用状況 利用定員4名

延べ利用人数 553人 延べ利用回数 270回 一日平均 1.5人 実人員 25人

(昨年度延べ利用人数 610人 延べ利用回数 292回 一日平均 1.7人 実人員 27人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
利用人数	50	51	51	43	39	47	281
利用回数	25	25	25	21	19	23	138
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
利用人数	45	47	45	43	45	47	272
利用回数	22	23	21	21	22	23	132

3. アクシデント

- ・朝食前の与薬を忘れ、食事開始後になったケースがあった。

特定相談支援護事業 えのき 事業報告

1. 職員体制

管理者 1名 相談支援専門員 1名(兼務)

2. 利用状況(年間)

実利用人数 34人(内、2人新規契約、1人契約解除)

- ・日常生活全般に関する相談 32件
- ・地域の障害福祉サービス事業所等の情報提供 6件
- ・指定計画相談 30件(内、計画変更 4件含む)
- ・モニタリング 25件

3. 主な派遣研修・会議等

- ・法人職員研修、法人職員会議
- ・計画相談策定のためのカンファレンス開催
- ・今後の生活に向けたカンファレンス開催

居宅支援事業 サポートセンターめい 事業報告

【総括】

2018年度は自然災害での支援キャンセルや入院者が多数あり、さらに長期化した事によって大幅に利用数が減る見込みであったが、既存利用者での要望に応じて支援拡大をおこなう事によって最小限に留まっている。

利用者様から要望があれば、サービス提供責任者や主任が訪問等により状況確認をおこない、ニーズや課題把握に努めた。相談支援や支援センターと状況共有をおこない、状況によっては関係機関とケース会議を開催できるよう調整をおこない、ニーズ課題の共有や支援方針の検討、必要な情報提供などおこない連携や要望に応えるよう対応をおこなった。

相談支援でのモニタリングやサービス等利用計画作成に必要な支援状況や検討すべき課題の情報提供をおこない、サービス担当者会議が開催される場合はサービス提供責任者や主任が積極的に参加をした。支援内に潜在する課題提示をすると共に支援可能な方法を提案し、支援提供できるようになった。

事業所営業時間外でも緊急時に対応できる様、今年度より主任も緊急時携帯を所持し対応をおこない、事業所内外の対応連携できる体制の強化を図った。

業務マニュアルに基づいて業務が遂行できるよう状況確認をおこない、状況に応じて修正をおこなった。また、必要な要項が出てきた際は帳票の改定をおこない、必要な情報が記録できるように対応をおこなった。

職員のスキル拡大の為、中堅職員が中心となってチームを管理し、同行による引継ぎや職員の特性を意識して把握し、適切に支援提供できるスキルを構築できるように支援状況確認やアドバイスなどのフォローアップを実施し支援層の拡大に努めた。

行動援護従事者の養成を継続して実施し、経過措置終了後もヘルパーが安定派遣できるように、研修計画に基づいて派遣をおこなった。

1. 職員体制

管理者 1 名（兼務） サービス提供責任者 3 名

職員 29 名（常勤） 契約職員 1 名 嘱託職員 3 名

登録ヘルパー 9 名 事務員 2 名（兼務）

2. 事業内容

居宅介護：重度訪問介護：行動援護：移動支援

3. 利用者概要 登録者 88 名 うち児童 1 名

（2019 年 3 月末現在）

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	5	9	18	8	2	2	34.7 歳
女性	1	12	13	11	5	2	36.5 歳

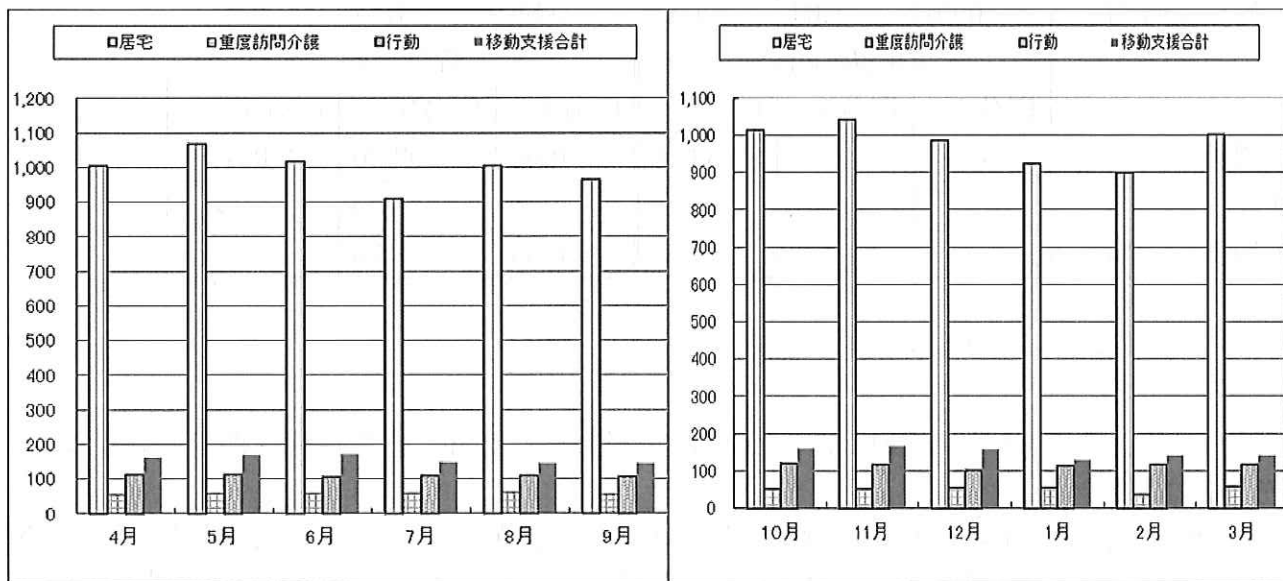
合計	6	21	31	19	7	4	35.6 歳
----	---	----	----	----	---	---	--------

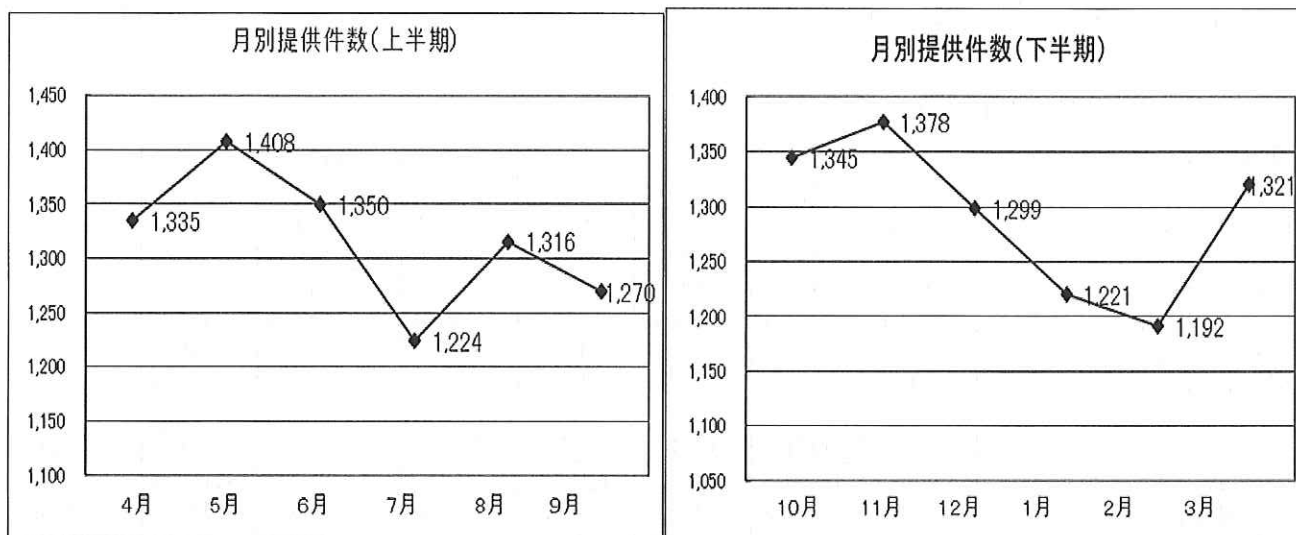
4. 居宅支援状況（時間数）

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
居宅介護	1,237.8	1,271.3	1,240.5	1,105.2	1,208.8	1,155.3	7,218.9
重度訪問介護	242.0	272.5	235.0	238.5	252.1	251.5	1,491.6
行動援護	277.6	278.0	299.2	304.0	332.2	330.6	1,821.6
移動支援（身体介護伴う）	456.2	475.6	495.9	421.3	387.4	378.3	2,614.7
（身体介護伴わない）	81.5	64.5	68.0	59.5	78.0	74.5	426.0
移動支援 合計	537.7	540.1	563.9	480.8	465.4	452.8	3,040.7
総合計	2,295.1	2,361.9	2,338.6	2,128.5	2,258.5	2,190.2	13,572.8

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年度計
居宅介護	1,217.5	1,250.8	1,200.1	1,136.0	1,101.3	1,242.8	7,148.5	14,367.4
重度訪問介護	241.5	241.5	244.0	248.5	241.0	260.0	1,476.5	2,968.1
行動援護	354.1	324.6	349.1	361.7	373.1	349.3	2,111.9	3,933.5
移動支援（身体介護伴う）	389.0	405.6	368.9	311.5	405.7	360.0	2,240.7	4,855.4
（身体介護伴わない）	78.5	78.5	91.0	79.0	73.3	91.0	491.3	917.3
移動支援 合計	467.5	484.1	459.9	390.5	479.0	451.0	2,732.0	5,772.7
総合計	2,280.6	2,301.0	2,253.1	2,136.7	2,194.4	2,303.1	13,468.9	27,041.7

	居宅介護	重度訪問	行動援護	移動支援	総合計
2017 年(年間)	14,590.1	3,381.8	3,826.5	5,426.6	28,110.1
2018 年(年間)	14,367.4	2,968.1	3,933.5	5,772.7	27,041.7





【障害程度区分による利用状況一覧】

時間数 件数 平均支援時間	居宅介 護					
	児童	区分3	区分4	区分5	区分6	
	0.00	103.50	541.80	733.40	12,988.70	
	0	100	482	740	10,517	
	0.00	1.04	1.12	0.99	1.24	
時間数 件数 平均支援時間	重度訪問介護			行動援護		
	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6
			2,968.10	0.00	902.20	3,031.30
			649	0	240	1100
			4.57	0.00	3.76	2.76

5. インシデント・アクシデント・苦情

○インシデント

介護 58 件、整備 19 件、交通 9 件、紛失 7 件、第三者 12 件、人権侵害 3 件、運営 4 件、その他 12 件

全体として、確認不足やルール設定された事柄の失念が多くなっている。前期のインシデントを踏まえ、混雑が見込まれる日程の情報提供を行ったことにより、少しではあるが改善の兆しが見られたことから、継続的にルールや決まり事、支援内容の確認、指示などを行い次年度の改善につなげていく。

また、報告としては挙がりきっていないが、支援内容のみでなく支援間、業務間の移動時間が充分でないためリスクが高まりやすくなっており、職員が負担を感じている状況が継続している。ヘルパー業務に従事している職員が多くなっていない現状はあるが、安定し、ヘルパー自身も気持ちに余裕を持って従事できる体制の整備を来年度進めていく必要がある。

○アクシデント・苦情

介護 5 件、遅刻 2 件、調整 2 件、転倒 3 件、破損 3 件、服薬 1 件、紛失 1 件、忘却 3 件、忘れ物 1 件、苦情 5 件

今年度は職員単独の思い込みで判断した事により支援を中断してしまう重大なアクシデントが発生した。担当職員より報告があった事により、事実経過を確認し、すぐに支援を再開した為、大きなトラブルには至らなかったが、居宅事業の特性である1対1での職員の力量が問われる事や職員単独での判断に至らない様、職員事業所が状況共有して判断・支援していけるような体制整備が今後問われてくる。

その他、支援忘れが発生して間もない内に再発してしまう事があった。発生要因は違うが利用者様にとって必要な支援が抜けて提供されない事はあってはならないので、サービス提供責任者からの支援前確認や指示の重要性が再認識された。

破損や転倒、苦情で同じ利用者が続く傾向があり、アクシデントが発生する前や後のリスク管理の甘さが再発に繋がった。原因の追究や再発防止策の検討の徹底、介助方法事態の見直しなど来年度の課題となる。

6. 主な派遣研修・会議等

○派遣研修

- ・アセスメント・プランニング
- ・OJT リーダー育成研修
- ・リスクマネジメント研修（担当職員編）
- ・スーパービジョン
- ・京都府相談支援従事者初任者研修(3日コース)
- ・京都府相談支援従事者初任者研修（演習）
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）

7. レスパイト事業

1. 職員体制

○管理者 1名

○職員 53名（正職員 38名、契約 5名、登録ヘルパー 10名）

○事務員 2名（兼務）

2. 事業内容

○タイムケア ○送迎 ○入浴 ○施設利用

3. 利用者概要（男性 29名 女性 23名） ※登録者（2019年3月末現在）

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	2	7	12	6	1	1	36.4歳
女性	0	5	5	9	3	1	41.0歳

4. 利用状況

利用内訳

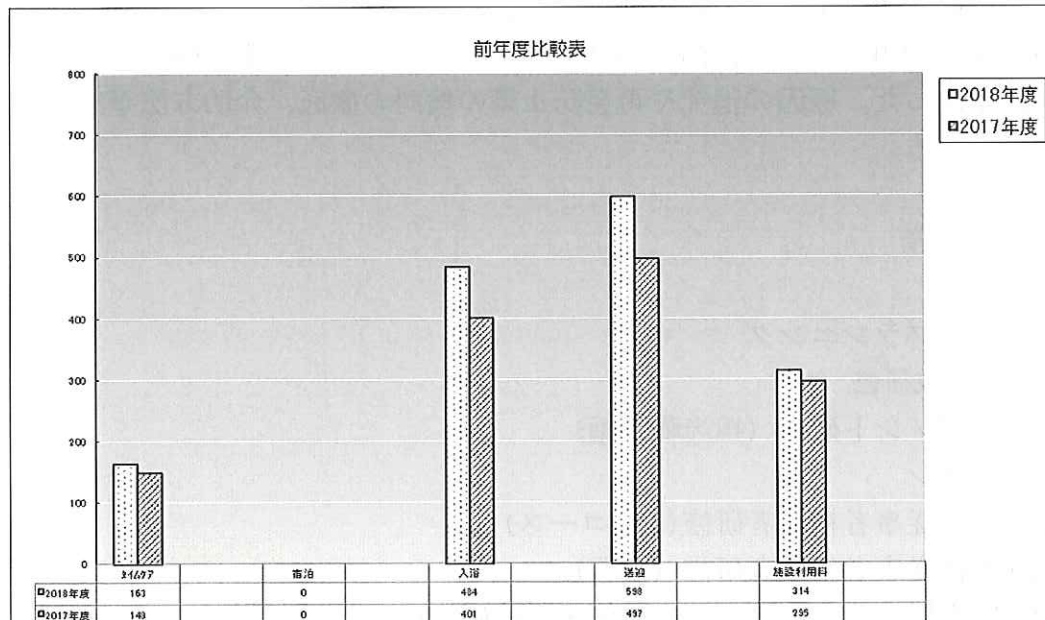
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
タイムケア	11	21	14	12	15	13	13	15	14	8	12	15	163
宿泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入浴	40	42	43	35	46	37	40	40	36	42	41	42	484
送迎	37	45	53	38	44	60	50	63	48	46	63	51	598
利用料	28	24	22	25	31	31	24	25	27	26	24	27	314
給食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

☆自宅入浴が難しい方の入浴場として、また学校・職場・ショートステイ先への送迎等、主に障害者自立支援法では賄えないニーズに対してご利用頂いています。

☆冠婚葬祭・家族の入院・本人又は介護者のリフレッシュ時などにご利用頂いています。

年間件数

	タイムケア	宿泊	入浴	送迎	施設利用料
2017年度	148	0	401	497	295
2018年度	163	0	484	598	314



放課後等デイサービス そらまめ 事業報告

【総 括】

開所 3 年目、年度初めには小学 1 年生 3 名を新たに迎え、年度途中にも利用申し込みがあり 13 名の利用があった。活動については、平日は学校生活の疲れもあるので活動については短時間で参加自由とし、ゆっくり過ごすことや、自分の好きなことをすることに重点をおいた。長期休みはスポーツセンターで体を使った遊びをしたり、クッキングや買い物をしたり、楽しさの中から積極性が出せるように個々のペースでじっくり自分のやりたいことに取り組んだり自分で決めたりすることを大切にした。日々の活動や関係を通して、緊張した表情で来られていた利用者から少しずつ笑顔が見られたり、自分の意見を職員に伝えられるようになったりとそらまめの中に居場所ができてきている。

徐々に慣れてこられると日数を増やしたいという要望があり 2 月から職員が増えた際に段階的に定期利用日を増やすようにし一日 4～6 名の利用者来所予定であった。それでも利用者の体調不良や入院などの長期欠席もあり、稼働率は大幅に伸ばすことはできていない。

そらまめの新たな活動場所の検討については、業者との相談や見学を重ねているが条件に合うところは見つかっていない。今後も継続して探していくとともに、新たな職員の状況をみて利用日数を増やしていく。

職員体制は新たな非常勤職員・登録職員が加わり送迎や活動の部分でニーズにあった個別の対応ができるようになってきた。また少しずつではあるが喀痰吸引等の医療的ケアの第 3 号研修を受けた職員も増えてきている。今後は、職員間の日々の情報共有を密にし、事業方針や支援計画書の理解を深めるなど同じ方向を向いて支援を積み重ねていけるように日々のミーティング以外にも工夫していく必要がある。

また、年度末に高校とそらまめを卒業する利用者が 3 名おられ、新たな生活を始めるにあたりサポートセンターめいや他の関係機関と連携し新たに必要な支援が受けられるよう連絡調整をおこなった。

1. 職員体制

所長 兼 児童発達管理責任者 1 名 保育士（常勤 1 名 非常勤 2 名）
児童指導員（非常勤 1 名） 指導員（非常勤 4 名）

2. 利用状況

定員 10 名 登録 13 名（3 月末）男性 6 名 女性 7 名
年間開所日数 238 日 年間延べ利用者数 796 名（昨年度 614 名）
一日平均利用者数 3.3 名（昨年度 2.5 名）

3. 利用時間

平日 月曜～金曜 学校終了時から 17 時 30 分まで
長期休暇中 月曜～金曜 9 時 30 分から 17 時 30 分まで

4. 対象者

北区・上京区・左京区・中京区・下京区

5. 主な活動

1) 外出先

イオンモール五条、北大路ビブレ、カナート洛北、大宮交通公園、
高野障害者スポーツセンター

2) 主なレクリエーション活動

音の風、クッキング、創作

3) 避難訓練 11 月実施：参加者 6 名(うち利用者 0 名)

※利用者別の室内から屋外への移動についての部分訓練

3 月実施：参加者 13 名(うち利用者 4 名)

※消防参加の全体訓練

6. アクシデント

・介護 6 件
・破損 1 件
・忘れ物 2 件

・転倒、怪我 6 件
・車両関係 5 件
・連絡調整・書類 2 件

以上 22 件

※利用者や職員が増え、過ごす場所や過ごし方、物の管理などにさらに注意が必要になってくる部分で介護や転倒、忘れ物などのアクシデントが増えた。アクシデントが起こった際には、個々の職員のスキル・環境面・障害特性・全体の職員で注意できることなどを見直し改善を図った。

※車両のアクシデントも続けて発生した。運転手だけでなく、添乗常務の役割、送迎コースの設定や送迎までの時間の使い方など多方面からの改善を測り、安全運転を心掛ける。